

出でまして（乃木静子）

乃木静子 乃木希典の妻。二十歳のとき、乃木希典と結婚（乃木は鹿児島の子しか嫁に貰わぬ、と常々言っていた）。日露戦争に出征する夫・希典と二人の息子（勝典・保典）らに、戦死したときに遺体が異臭を放つと不憫であるという理由で、当時非常に高価だった香水を持たせた逸話は有名。

出でまして かえります 日のなしとき

解説 乃木希典と夫人静子は、崩御された明治天皇のみあとをしたひて、御大葬の弔砲が鳴り終わる頃、礼法どおり刀によって殉死した。

けふの みゆきに あうぞ 悲しき

語釈 ※出でまして⇨出かけた。※みゆき⇨御幸（行くことを敬つていう語）。

通釈 お出かけになったままお帰りにならないと聞きました。今日の明治天皇の大葬に立ち会うのは悲しい。